

学級経営とは何か、
そして特別活動（学級活動）との関係を考える

早稲田大学
大村 龍太郎

1. 「学級経営」とは何か

- ・その定義や概念の多様性から
- ・「目的の重点をどこにおくか」という視点から

2. 学級経営と学級活動（特別活動）との関係をどう考えるか

- ・「時間軸の取り方」と「多角性の側面」から学級を見たとき

3. 学級経営と学級活動（特別活動）との接続から見える留意点

- ・【高次の資質・能力】案ともつなげながら

学級経営とは

- **学術的に明確な一つの定義はない**
- **学習指導要領や解説にも、「学級経営の充実」という言葉は多数出てくるが、そのものの明確な定義は示されていない※。**

※ 文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説 特別活動編』には、
「学級経営とは、一般的に、その担任教師が学校の教育目標や学級の実態を踏まえて作成した学級経営の目標・方針に即して、必要な諸条件の整備を行い運営・展開されるものと考えられる。」
と示されているが、これは〈どのように行われているものと考えられるか〉の説明にとどまっている。

学級経営概念の多様性

例えば・・・

木原(1981)の「学級教育の範囲」との関連的整理

- ◆ 学級教育=学級経営論(教科指導・特別活動・条件整備)
- ◆ 学級経営=「条件整備+特別活動」論
- ◆ 学級経営=条件整備論

下村(1982)の三つの整理

- ◆ 学級経営・機能論
- ◆ 学級経営=経営主体活動論
- ◆ 学級教育=学級経営論

白松(2017)の整理

- ◆ 狭義の学級経営=教室の秩序化、各教科の授業・教育活動のための条件整備
 - ◆ 広義の学級経営=
 - ・学級づくり(人間関係づくり、集団づくり、生活づくり)
 - ・全人教育をめざした学級教育(自律・自治)
- ↓
- 学級経営の三領域=必然的領域・計画的領域・偶発的領域

たとえば、対象範囲的な面で見ると・・・

木原(1981)の「学級教育の範囲」との関連的整理

◆ 学級教育＝学級経営論(教科指導・特別活動・条件整備)

「教科指導」「特別活動」「条件整備」の3領域すべてを学級経営に含める、最も包括的な捉え方

◆ 学級経営＝「条件整備＋特別活動」論

直接的な「教科指導」を範囲から除き、特別活動とそれらを支える基盤づくり(条件整備)を学級経営と見なす立場

◆ 学級経営＝条件整備論

教育活動そのものではなく、活動を効果的に行うための土台となる「条件整備」のみを学級経営の役割とする、最も限定的な捉え方

白松（2017）の言う「学級経営の二つの潮流」

- ① 学習指導のために教師が児童生徒をコントロールすることによる教室の秩序化、授業・教育活動のための条件整備 という考え方（教師の技術重視）
- ② 人間関係づくり、集団づくり、生活づくり等の「学級づくり」
全人教育をめざした学級教育（自律・自治）という考え方
（児童生徒と教師の協働的立場重視）

白松は、①を狭義の学級経営、①もふまえた②を広義の学級経営とする

「学級経営の三領域」 (白松2017) より (一部発表者が表現を加筆・短縮)

4月

3月

「偶発的領域」…ともに学級を創る

問題解決と学校文化の創造 (自律的・自治的集団へ)

問題解決：児童生徒の問題発見、解決方法模索、実践、振り返り
文化創造：児童生徒が創る学級・学校文化

「計画的領域」…できることを増やす

教師による計画的な指導・援助

ルーティン：学習や生活のきまりごとの習慣化

プロデュース：作業手順の見える化等 (教室掲示など)

「必然的領域」…学級のあたたかさを創る

人権に関することなど、「心と体を大切にする」ための一貫した毅然とした指導人としての敬意、自己と他者に敬意のある言動、大切にされている感覚

「目的・目標、重点に何を置くか」から見た学級経営の多様性

◆主体的・対話的で深い学びの条件整備という「教育活動の下支えづくり」?

◆その学級・教室における「子どもの幸せな生活や安心・安全の保障」?
(子ども同士、教師との人間関係構築)

◆自治的で、多様性を包摂・尊重するような「理想の集団の具現化」自体?

「今」の成立・安定・幸せの重視

◆協働的問題解決力の育成、共同体感覚の醸成、互いの自由を尊重する態度、
市民性育成(民主主義社会の担い手育成)などの
「何らかの資質・能力や観を育むこと」?

「未来」の安定・成長・幸せの重視

学級経営が語られるとき、いずれもが目的・目標として文脈に応じて顔を出してくる。
そのどれに比重を置いているかによって、「学級経営の手立て」とよばれるものも
異なってくる。 では、特別活動はどのようにつながることになるか?

1. 「学級経営」とは何か

- ・その定義や概念の多様性から
- ・「目的の重点をどこにおくか」という視点から

2. 学級経営と学級活動（特別活動）との関係をどう考えるか

- ・「時間軸の取り方」と「多角性の側面」から学級を見たとき

3. 学級経営と学級活動（特別活動）との接続から見える留意点

- ・【高次の資質・能力】案ともつなげながら

学校・学級を「今」と「未来」の幸せを実現しようとする場所と定義したとしたら…
 学級経営（学活を軸にした特に学級づくり）とは、だれにとって、何を志向するもの？

	子どもにとって	教師にとって	社会にとって
生活保障的 今の幸せ	<p><u>安心、安全、安定、居心地 楽しさ、喜び、(良好な人間関係)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 自己受容(友達や教師からの承認) 自由の相互承認 他者貢献・他者信頼 (ケアされ、ケアする関係) 人権尊重、人権保障 学びのやりがい がある学級 	<p><u>安心、安全、安定、居心地 楽しさ、喜び、(良好な人間関係)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 自己受容(子ども・保護者からの承認) 他者貢献・他者信頼 (ケアし、ケアされる関係) 人権尊重、人権保障 教育のやりがい、生きがい がある学級 	<p><u>学齢期の心身の安全、 生活保障</u></p> <p>(今現在の安定を重視)</p> <p style="text-align: right;">がある学級</p>
発達保障的・主体形成的 未来の幸せにつながる成長	<p><u>学びの材料となる適度な壁、 困難の経験がある</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 適度な衝突の経験→それを共に対話し乗り越える経験 多様な人々が共に生きることの難しさの経験→それを対話し考え合い、乗り越えたり調整したりする経験 人間関係におけるレジリエンスを高める経験 で個々に力がつく学級 	<p><u>教育者としての成長につながる壁、困難の経験がある</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの適度な衝突を教育的契機として対応する経験 多様な子どもが共に生きることの難しさを共に悩み対応する経験 で教育力がつく学級 	<p><u>平和で民主的な社会のつくり手、市民としての育ち</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの適度な衝突を教育的契機として対応する経験 多様な子どもが共に生きることの難しさを共に悩み対応する経験 自分たちで民主的によりよい社会やその体制、きまりをつくっていく経験 で幸せな人間社会をつくる力がつく学級

学校・学級を「今」と「未来」の幸せを実現しようとする場所と定義したとしたら…
 学級経営（学活を軸にした特に学級づくり）とは、だれにとって、何を志向するもの？

	子どもにとって	教師にとって	社会にとって
生活保障的 今の幸せ	<u>安心、安全、安定、居心地</u> <u>楽しさ、喜び、(良好な人間関係)</u>	<u>安心、安全、安定、居心地</u> <u>楽しさ、喜び、(良好な人間関係)</u>	<u>学齢期の心身の安全、</u> <u>生活保障</u>
◆主体的・対話的で深い学びの条件整備という【教育活動の下支えづくり】 ◆【子ども一人一人の幸せな学級生活や安心・安全の保障】(子ども同士、教師との人間関係構築) ◆自治的集団のような【理想の集団の具現化】自体 などを志向			<領域概念的かつ機能概念的>
発達保障的・主体形成的 未来の幸せにつながる成長	<u>学びの材料となる適度な壁、</u> <u>困難の経験がある</u>	<u>教育者としての成長につながる壁、</u> <u>困難の経験がある</u>	<u>平和で民主的な社会のづくり</u> <u>手、市民としての育ち</u>
◆協働的問題解決力の育成、共同体感覚の醸成、市民性育成(民主主義社会の担い手育成) などの【何らかの資質・能力や観を育むこと】 を志向			<領域概念的>
	人間関係におけるレゾナンスへと 高める経験 <u>で個々に力がつく学級</u>	で教育力がつく学級	での体制、さまりをづくっていく経 験 <u>で幸せな人間社会をつくる力がつく学級</u>

学校・学級を「今」と「未来」の幸せを実現しようとする場所と定義したとしたら…
 学級経営（学活を軸にした特に学級づくり）とは、だれにとって、何を志向するもの？

	子どもにとって	教師にとって	社会にとって
生活保障的 今の幸せ	<p><u>安心、安全、安定、居心地</u> <u>楽しさ、喜び、(良好な人間関係)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 自己受容(友達や教師からの承認) 自由の相互承認 他者貢献・他者信頼(ケアされ、ケアする関係) 人権尊重、人権保障 学びのやりがい <u>がある学級</u> 	<p><u>安心、安全、安定、居心地</u> <u>楽しさ、喜び、(良好な人間関係)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 自己受容(友達や教師からの承認) <p>もちろん、学級活動は、子どもにとって「今」にも「未来」にも直接的に資することとなる。</p>	<p><u>学齢期の心身の安全、</u> <u>生活保障</u></p>
発達保障的・主体形成的 未来の幸せにつながる成長	<p><u>学びの材料となる適度な壁、</u> <u>困難の経験がある</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 適度な衝突の経験→それを共に対話し乗り越える経験 多様な人々が共に生きることの難しさの経験→それを対話し考え合い、乗り越えたり調整したりする経験 人間関係におけるレジリエンスを高める経験 <u>で個々に力がつく学級</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 内容(1)による合意形成や調整による個々の幸せな生き方への寄与 内容(2)(3)において、集団で話し合いながらも個々の意思決定の尊重 <p>難しさを共に悩み対応する経験</p> <p><u>で教育力がつく学級</u></p>	<p><u>平和で民主的な社会のつくり</u> <u>手、市民としての育ち</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの適度な衝突を教育的契機として対応する経験 多様な子どもが共に生きることの難しさを共に悩み対応する経験 自分たちで民主的によりよい社会やその体制、きまりをつくっていく経験 <u>で幸せな人間社会をつくる力がつく学級</u>

今回の改訂の方向性から、学級活動が教育的な重要性として特にかかわるのがこの部分

1. 「学級経営」とは何か

- ・その定義や概念の多様性から
- ・「目的の重点をどこにおくか」という視点から

2. 学級経営と学級活動（特別活動）との関係をどう考えるか

- ・「時間軸の取り方」と「多角性の側面」から学級を見たとき

3. 学級経営と学級活動（特別活動）との接続から見える留意点

- ・【高次の資質・能力】案ともつなげながら

ここばかりに必死になりがち。(もちろん大事なことであるし、②につながるのだが)

	子どもにとって	教師にとって	社会にとって
生活保障的	<p>安心、安全、安定、居心地 楽しさ、喜び、(良好な人間関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己受容(友達や教師からの承認) 自由の相互承認 他者貢献・他者信頼 (ケアされ、ケアする関係) 人権尊重、人権保障 学びのやりがい <p style="text-align: right;">がある学級</p>	<p>安心、安全、安定、居心地 楽しさ、喜び、(良好な人間関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己受容(子ども・保護者からの承認) 他者貢献・他者信頼 (ケアし、ケアされる関係) 人権尊重、人権保障 教育のやりがい、生きがい <p style="text-align: right;">がある学級</p>	<p>学齢期の心身の安全、 生活保障</p> <p style="text-align: center;">(今現在の安定を重視)</p> <p style="text-align: right;">がある学級</p>
発達保障的・主体形成的	<p>学びの材料となる適度な壁、 困難の経験がある</p> <ul style="list-style-type: none"> 適度な衝突の経験→それを共に対話し乗り越える経験 多様な人々が共に生きることの難しさの経験→それを対話し考え合い、乗り越えたり調整したりする経験 人間関係におけるレジリエンスを高める経験 <p style="text-align: right;">で個々に力がつく学級</p>	<p>教育者としての成長につながる壁、困難の経験がある</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの適度な衝突を教育的契機として対応する経験 多様な子どもが共に生きることの難しさを共に悩み対応する経験 <p style="text-align: right;">で教育力がつく学級</p>	<p>平和で民主的な社会のつくり手、市民としての育ち</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの適度な衝突を教育的契機として対応する経験 多様な子どもが共に生きることの難しさを共に悩み対応する経験 自分たちで民主的によりよい社会やその体制、きまりをつくっていく経験 <p style="text-align: right;">で幸せな人間社会をつくる力がつく学級</p>

②を意識することが学級活動の質を高めることにつながり、②の成長を高める。特に、民主主義社会の担い手として。それが「今」と「未来」の両者を見据えた学級経営に直結する。

高次の資質・能力との関連から

高次の資質・能力案【学級活動・ホームルーム活動(1)】(例として小学校を抜粋)では・・・

- 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする
- 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらをよりよく見直そうとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

①今回の特別活動では、「学びに向かう力・人間性」「主体的に取り組む態度」が最も重要というふうに取れる方向で進んでいるが(もちろん大事だが)、網掛けの部分は、そのような思考力・判断力・表現力を磨かなければならない。その重視は必要。態度主義に陥らないように。

②そのような資質・能力はなすことによって身に着けていくために、生活現実の課題見つけを重視すること。

ここでいう「課題」とは、負のイメージのようなものではないことに留意。

高次の資質・能力との関連から

高次の資質・能力案【学級活動・ホームルーム活動(1)】(例として小学校を抜粋)では・・・

- 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする
- 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらをよりよく見直そうとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

③ 学活における話し合いの方法自体が形骸化しすぎないように。
一定の型を示すことは必要だが、それをなぞること自体が目的化したような授業実践も散見される。

いろいろな例を紹介するなどのも一つの手。(学級会、クラス会議 等。)その際、
「対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらをよりよく見直そうとする」
というのは、「それが実現できる方法」と「実現しようとする態度」のかけ算でなされ、
そのかけ算を身体化した状態が資質・能力が育まれたということのはず。
そのような「質の高い、深い学びとしての例」が望ましい。そのための時数の柔軟化も。

高次の資質・能力との関連から

高次の資質・能力案【学級活動・ホームルーム活動(2)(3)】(例として小学校を抜粋)では・・・

- 自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の生き方に
つなげようとする
- 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

①網掛けの部分は(1)と同様に、民主的な社会の形成者に重要な資質・能力。
そこを十分に意識する。

②そのような資質・能力を、なすことによって身に付けていくために、
「課題見つけ」「課題提示のあり方」「他者との交流」を重視する。

ここまでのような【高次の資質・能力】育成の視点での学級活動(特別活動)が、
学級経営論で多様に議論される目的・目標のいずれにもつながる。

【引用・参考文献】

- ・ 赤坂真二(2018)『最高の学級づくりパーフェクトガイド』 明治図書
- ・ 安藤知子(2013)「学級を対象とする研究の領域とアプローチ」 蓮尾直美・安藤知子編『学級の社会学-これからの組織経営のために-』 ナカニシヤ出版
- ・ 改発智也・浅田匡（2024）「熟練教師の授業認知過程に関する事例研究」 日本学級経営学会誌、6巻、 pp.1~12
- ・ 木原孝博(1981)「学級経営」『教育原理』（清水義弘編、光生館、148-180）
- ・ 児島邦弘(1991)『学校と学級の間—学級経営の創造』 ぎょうせい
- ・ 国際協力機構（JICA）. (2019). 『日本式教育』 で子どもたちが変わる！エジプト（特集）. JICA広報誌MUNDI, 2019年4月号.
- ・ 白松賢（2014）「授業／学級づくりに関する教育方法学的研究(1)－教育課程にみる「学級経営」概念の日本の特色に着目して－」 愛媛大学教育学部紀要 第61巻 pp71-78.
- ・ 白松賢(2017)『学級経営の教科書』 東洋館
- ・ 志村廣明(1994)『学級経営の歴史』 三省堂
- ・ 下村哲夫(1982)『教育学大全集14 学年・学級の経営』 第一法規出版.
- ・ 下村哲夫・天笠茂・成田國英(1994)『学級経営の基礎・基本（学級経営実践講座1）』 ぎょうせい.
- ・ 田中耕治編著(2022)『学級経営の理論と方法』 ミネルヴァ書房
- ・ 細谷敏夫（1951,1969,1991）『教育方法』 岩波書店
- ・ 宮坂哲文（1964）『学級経営入門』 明治図書
- ・ 宮田丈夫（1970）『新訂 学級経営』 金子書房

【引用・参考文献】

- ・ 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』
- ・ Acosta, J., et al. (2024). *Teacher caring and support and school connectedness*. PMC10935603.
- ・ Australian Institute for Teaching and School Leadership. (2011). *Classroom management: Standards-aligned evidence-based approaches*.
- ・ Aydin, G., & Karabay, A. (2025). A comparative study of classroom management influence on student achievement: A meta-analysis. *Cogent Education*.
- ・ *Cogent Education*. (2024). Implementation of Tokkatsu-related activities in an online learning context for 5 months in a secondary public school in Peru. *Cogent Education*.
- ・ Dewey, J. (1910). *How we think*. D. C. Heath & Co.
- ・ EBSCO Research Starters. (2024). *Classroom management*. EBSCOhost.
- ・ Jablonski, J. A. (2022). SEL and PBIS—Much more than alphabet soup. *Administrator*, 34–35.
- ・ ResearchGate. (2021). *Implementation of Tokkatsu to improve face-to-face interaction between students*.
- ・ Tsuneyoshi, R. (2024). Tokkatsu: Reality, significance, and challenges in global contexts. In *Bloomsbury cultural history of education*.
- ・ Tsuneyoshi, R., Sugita, H., Kusanagi, K., & Takahashi, F. (2019). *Tokkatsu: The Japanese educational model of holistic education*. World Scientific.